

薬剤科

1. 概要

スタッフは、薬剤科長、副薬剤科長、薬剤師 4 名、薬剤助手 1 名の計 7 名です。このうち 1 名は、CRC 業務を併任しています。勤務体制は、平日の 8 時 30 分から 17 時 15 分、土曜の午前中（1 人当番制）ですが、オンコール体制をとっており、緊急時に対して 24 時間対応できるようにしています。業務内容は、医師の処方せんに基づく調剤業務を初め、注射薬の払出し、混注業務、抗がん剤調製、薬剤管理指導業務、治験業務、医薬品の在庫管理・情報管理など多岐にわたっています。安全管理の面では、医療事故の 8 割近くが医薬品に絡んだ事故といわれており、2007 年 4 月の医療法の改定に伴い、医薬品安全管理責任者の設置が義務づけられ、当院では薬剤科長が任命されています。病院内では、持参薬の管理など多くの分野で医薬品に関するリスクは存在しており、薬剤師として少しでも医療事故防止に貢献できるようシステムの見直し等リスクマネジメントに積極的に取り組んでいきたいと考えています。経営面では、2007 年 4 月より DPC が導入されたことで、後発医薬品の活用が医薬品費削減に重要となっています。良質の医療の提供と患者の安全性確保を目標とし、患者の立場に立った、患者の望む、患者にやさしい医療に貢献したいと考えています。

2. 業務実績

- ① 医薬品管理：2008 年の採用医薬品は 962 品目で、その内、注射薬を中心に 88 品目の後発医薬品を導入し、年間の購入費は約 3 億 5 千万円となっています（表 1）。
- ② 調剤関係：外来は、原則院外処方で発行率は約 90%で推移し、入院調剤では、高齢者や嚥下障害の患者も多いことから、粉碎や 1 包化の依頼も多く、より慎重な調剤が必要です。注射薬は、個人渡りで、無菌調整と抗がん剤の調整も行っています。2008 年 4 月には外来化学療法加算の施設基準「1」を取得して、外来のがん化学療法にも対応し、院内で実施されるがん化学療法のほぼすべてを薬剤科で調整しています（表 2, 3, 4）。
- ③ 薬剤管理指導業務：薬剤管理指導業務は、最も重要な業務として取り組んでおり、患者のベッドサイドで薬を薬学的に管理することにより、良質な薬物療法を提供するとともに、診療報酬にも反映し、病院経営にも貢献し、確実な薬剤管理指導業務の実施を目指しています（表 4）。
- ④ 治験業務：治験管理室に、併任の治験薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務職員 1 名を配置し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率 100%を目標とし治験業務にあたっています。2008 年は、治験として、神経内科、循環器科、外科を中心に 8 課題（40 症例）を契約しました（表 5）。
- ⑤ その他：チーム医療では、ICT、糖尿病教室など積極的に活動し、ICT では、抗菌薬の使用動向を監視し適正使用を啓蒙するとともに、消毒薬の適正、且つ安全、経済的な使用を推進しています。医療安全の面では、入院時患者持参薬に薬剤師が関与することは重要であり、医療安全推進部会と連携して持参薬確認ルールや再調剤などの運用手順を確立し、さらに、当院では高齢者が多く、服薬支援や与薬業務の省力化にも配慮が必要であり、薬の 1 包化ルールの見直しを行い、医薬品の安全使用に努めています。
- ⑥ 教育研修：薬学部 4 年生の実習受入れを行っています。2006 年に 1 名、2008 年に 1 名を受入れ、薬学教育 6 年制の移行に伴い 2010 年から始まる薬学生の長期実務実習については、近隣に新設された薬学部もあり薬学生の教育は当院の使命であると考え、それに向けた取り組みを

実施しているところです。

3. 2009年度の計画

2009年度は、以下の項目について取り組んでいきたいと考えています。

- ① 薬剤管理指導業務を強化する。
- ② 薬学教育6年制に伴う実習受け入れ体制と近隣の薬科大学との連携の強化を図る。
- ③ 抗がん剤の調整の継続と強化。
- ④ ハイリスク薬等の管理と院内研修の実施。
- ⑤ 後発医薬品のさらなる導入。

表1.採用医薬品数

	2006年	2007年	2008年
内服	477 (22)	482 (24)	484 (20)
外用	152 (13)	168 (17)	172 (22)
注射	345 (8)	336 (40)	306 (46)
合計	974 (43)	986 (81)	962 (88)

() 内は後発医薬品数

表2.処方箋枚数

	2006年	2007年	2008年
入院処方箋	32,124	31,514	29,201
院内処方箋	3,419	3,425	2,673
院外処方箋	31,526	28,270	24,092
院外処方箋発行率	90%	89%	90%

表3.注射箋枚数

	2006年	2007年	2008年
入院注射箋	50,210	50,678	52,859
外来処方箋	4,526	4,386	3,742
無菌調製件数	3,309	3,043	1,537
抗がん剤調製件数	70	153	632

表4.薬剤管理指導業務

	2006年	2007年	2008年
実施患者数	2,660	2,511	2,241
指導件数	4,765	4,584	3,941

表5.治験の新規課題と組入数

	18年度	19年度	20年度
新規契約課題数	9	5	8
新規契約症例数	46	20	40
実施状況 (全課題に対する組入数)	12	27	16